

令和5年11月14日

## 千葉県から新種のカメムシ 「キヨスミチビナガカメムシ」を発見！

当館の伴 光哲共同研究員（元千葉県立中央博物館研究員）は、千葉県南部の清澄山の周辺から新種のカメムシを発見し、「キヨスミチビナガカメムシ *Stigmatonotum macronotum*」と名付けました。カメムシの和名に千葉県の地名に由来する名前がつくのは初めてのことです。

本研究の成果は2023年10月27日に昆虫分類学の国際誌である「Acta Entomologica Musei Nationalis Prague」にて公開されました。

### 研究の概要

千葉県南部の清澄山の周辺から採集されたカメムシの中に、日本から既に知られるいずれの種にも該当しない標本が見出されました。研究の結果、ヒョウタンナガカメムシ科チビナガカメムシ属の新種であることが分かり、*Stigmatonotum macronotum*（和名：キヨスミチビナガカメムシ）と命名・記載されました。和名は、産地である千葉県清澄山にちなんでつけられました。本種のホロタイプ標本は千葉県立中央博物館に保管されます。

### 発表者名

伴 光哲（千葉県立中央博物館 共同研究員（当時：千葉県立中央博物館 研究員）

### 本文の解説

2021年、当時千葉県立中央博物館の研究員であった伴氏のもとに、千葉県の清澄山の周辺で採集されたカメムシについての同定依頼がありました。これを受け、中央博物館の収蔵標本も検討したところ、重点研究「房総丘陵の自然 一過去、現在、未来」で採集された標本の中にも、同種と思われる個体が見出されました。

これらの標本について、形態形質をもとに分類学的な検討を行った結果、体に長い毛が生えないこと、前脚の棘の本数が5本以下であることから、国内に2種が分布する*Stigmatonotum*属（和名：チビナガカメムシ属）に属する種であることが分かりました。さらに、体の長さは体の最大幅の3.5倍前後であること、前胸背板の長さが1.0mmを超えること、前脚の棘の本数が3本もしくは4本であるといった特徴は、この属の既知のいずれの種にも該当しませんでした。よってこのカメムシの正体は、チビナガカメムシ属の未記載種（新種）であることが分かりました。

このため、本種の特徴である前胸背板が他種と比較して大きいことにちなみ、*S. macronotum*と命名し、新種として記載しました。また、和名は産地である千葉県清澄山にちなみ「キヨスミチビナガカメムシ」とつけました。なお、カメムシの和名に千葉県の地名に由来する名前がつくのは初めてのことです。

キヨスミチビナガカメムシは、照葉樹林内の崖や斜面に生育する、ミヤマカンスゲという植物の根際から見つかっています。また、本種の生息が今のところ確認されているのは、世界でも清澄山周辺の限られた地域だけです。このカメムシが他の地域にも生息しているのか、それとも清澄山周辺に固有な種なのか、今後調査を進めていく必要があります。

## 発表雑誌

雑誌名：「Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae」

論文タイトル：「A new species of the genus *Stigmatonotum* (Hemiptera: Heteroptera: Rhyparochromidae) from Japan, with notes on related species from the East Palaearctic and Oriental Regions」

著者：Teruaki Ban

DOI：doi: 10.37520/aemnp.2023.015

## 関連する事業・研究課題

- ・外部機関との協定事業「東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と千葉県立中央博物館との連携協力に関する協定」
- ・重点研究課題「房総丘陵の自然 一過去、現在、未来一」
- ・地域研究課題（令和4年度）「千葉県のカメムシ亜目相に関する研究」
- ・普遍研究課題（令和4年度）「ナガカメムシ上科の分類学的研究」
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C「学校に収蔵された標本類を通じた博学連携」（代表者：斎木 健一）
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 A「「ボカシの文化」にメスを入れる」（代表者：高宮広士）

## お問合せ先

千葉県立中央博物館 研究員 樽 宗一郎

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

TEL：043-265-3111

E-mail：s\_taru@chiba-muse.or.jp



写真 1. 今回新種として記載されたキヨスミチビナガカメムシ *S. macronotum*



写真2. 国内から知られるチビナガカメムシ属 (左：イチゴチビナガカメムシ；右：チビナガカメムシ)



写真3. キヨスミチビナガカメムシの生息環境 (東京大学千葉演習林内)



画像. キヨスミチビナガカメムシの分布図

※使用写真・画像は、全て Ban(2023)から引用